

取扱貨物重量の把握 ―食品流通業の例―

- 算定方法は、①実測、②単位数量当たり重量×数量、③容積×比重等、④最大又は平均積載量×台数、⑤売上額又は仕入額÷単位重量当たり額、⑥出荷重量÷入荷重量とみなす、⑦運送契約又は取引契約で定められた重量、⑧その他適確な算定方法（これらの合算も可能）から各事業者において実情に応じ選択。
- 郵便物、信書便物、宅配便（重量30kg以内かつ1回の受渡しの合計が150kg未満のものに限る。）又は軽量な資材及び事務用品（総量が取扱貨物重量全体の1%未満）の重量は考慮しないことができる。
- 輸送用器具は含めなくてよい。（パレットを商材として扱う場合等は算定対象。）

【算定事例1】（（一社）日本加工食品卸協会）

- ・ 取扱い商品が多品種に及ぶため、単品の積上げによる算定は困難であることから、売上高・仕入高から平均ケース当たり重量・平均ケース当たり売上単価で換算し、重量の把握をすることを基本とする。
- ・ 複数カテゴリを取り扱う場合は、カテゴリ別（加食・菓子・酒類・冷食等）に上記の方法にて重量算出する。

【算定事例3】（スーパー）

- ・ 大中小3店舗を抽出
- ・ 一般食品、酒、菓子、家庭用品、日配、冷凍食品、アイス、惣菜（チルド）、惣菜（フローズン）を実測
※ マテハンごとフォークリフトで計測、マテハン重量は除外
- ・ 当日の納品金額と上記実測より、kg当り単価を算出
- ・ 上記平均単価×年間通過高から年間重量を算出

【算定事例2】（（一社）日本スーパーマーケット協会）

- ・ 物流センサス（2021年度）の卸売業出荷原単位

米・肉	15.90 kg/万円
農産物	25.27 kg/万円
水産物	9.34 kg/万円
食料・飲料	15.67 kg/万円

目安として
仕入600億円
≒ 9万トン

（参考）物流センサスの出入荷原単位から単純換算
※実際には、第一種荷主・第二種荷主・物流業務受託等の区分けが必要

業種	9万トンの金額目安（億円）	
食料品製造業	出荷 297	入荷 254
飲料・たばこ・飼料製造業	出荷 146	入荷 142
農畜産物・水産物卸売業	出荷 852	入荷 833
食料・飲料卸売業	出荷 702	入荷 693